

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あぶれんどこくらみなみ		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 3日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 3日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士・作業療法士・保育士などの専門職が在籍しており、それぞれの専門性を活かした多職種連携による療育支援を行っている。	児童の発達状況に応じた支援が行えるよう、職員間での情報共有やケース検討を行いながら療育内容の見直しを行っている。	外部研修や勉強会への参加を通して、職員の専門性向上と支援力の向上に努める。
2	児童一人ひとりの特性や発達段階に応じて個別療育を行い、基礎的な力を育むとともに、集団療育では社会性や協調性の発達を促す支援を実践している。	活動内容が固定化しないよう職員間での立案や検討を行い、個別療育と集団療育を組み合わせた支援を実施している。	多職種連携を活かし、児童の発達状況や特性に応じた支援体制の充実を図る。
3	連絡帳や面談等を通して保護者との情報共有を行い、家庭と連携しながら児童の成長を支える支援を行っている。	日々の療育の様子を連絡帳で丁寧に伝えるなど、保護者との情報共有を意識した対応を行っている。	今後も児童一人ひとりの状況に応じた療育支援を行い、安心して通所できる環境づくりを継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士が交流できる機会が少なく、相互理解や情報共有の場が十分に確保できていない。	送迎体制や利用時間の違いにより、保護者同士が直接顔を合わせる機会が少ないことが要因と考えられる。	保護者会など保護者同士が交流できる場の設定を検討し、家庭と事業所をつなぐ機会づくりを行う。
2	災害時の対応や事業所の取り組みについて、保護者への周知が十分でない部分が見られる。	事業所内で実施している取り組みや安全対策について、情報発信が十分に行き届いていない部分がある。	災害時の対応や事業所の取り組みについて、掲示や文書、ホームページ等を活用し周知を図る。
3	児童の進捗状況や課題について、面談の機会を増やしてほしいという保護者の意見がある。	日々の療育業務の中で面談時間の確保が難しい場合があり、保護者と直接話をする機会が不足する場面がある。	面談の機会を増やし、児童の成長や課題について保護者と直接共有できる機会を設ける。